

2019年12月13日
丸紅株式会社
株式会社みずほ銀行
みずほ信託銀行株式会社

国内の太陽光発電設備等に投資する投資法人の設立について
～国内上場インフラファンドの組成着手～

丸紅株式会社（社長：柿木 真澄、以下、「丸紅」）、株式会社みずほ銀行（頭取：藤原 弘治、以下、「みずほ銀行」）およびみずほ信託銀行株式会社（社長：飯盛 徹夫、以下、「みずほ信託銀行」）は、共同で設立した資産運用会社であるジャパン・インフラファンド・アドバイザーズ株式会社（以下、「JIA」）を通じ、主として国内の太陽光発電設備等に投資するジャパン・インフラファンド投資法人（以下、「JIF」）を設立しました。

昨今、地球温暖化を背景とした気候変動対策の重要性の高まりとともに、二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーの普及が喫緊の課題となっています。また、国としても、再生可能エネルギーはエネルギー自給率の向上に貢献するものとして、重要なエネルギー源と位置づけており、日本における重要性は引き続き高まっていくことが見込まれています。

そのような中、JIF は、他のインフラ資産と比較して運用実績の蓄積があり、既稼働案件の売買が増加している太陽光発電設備に重点投資を行う方針です。

丸紅は、太陽光パネルの製造設備販売やトレードから太陽光関連ビジネスに参入し、現在ではパネル販売・パワーコンディショナ販売、工事一括請負へ順次領域を拡大するなど、20年以上の太陽光関連ビジネスによる知見・ノウハウを蓄積しています。加えて15年以上にわたってリート事業を展開しており、100%子会社が運営する上場リート「ユナイテッド・アーバン投資法人（以下、「UUR」）」(*1)および私募リート「丸紅プライベートリート投資法人（以下、「MPR」）」(*2)は、運用を開始以来、着実に資産規模を拡大しています。

また〈みずほ〉は、国内発電事業に対するプロジェクトファイナンスのトップランナーであり、上場インフラ投資法人向け融資においても、既に3つの投資法人への融資実績を有しています。JIA へのエクイティ投資を通じ、再生可能エネルギーに係るビジネスへの取り組みを一層強化するとともに、今後も社会の持続可能な発展に一層貢献していきます。

資産運用会社である JIA は、丸紅グループの太陽光ビジネスに関する知見、ネットワークや UUR・MPR を成長させてきた運用経験、および、〈みずほ〉の豊富な国内発電事業に対する融資実績やネットワークを活用し、JIF の継続的な資産拡大を目指します。また、太陽光発電設備等への投資を通じて、地球環境に優しい社会の構築に寄与していきます。

(*1) 丸紅の 100%子会社であるジャパン・リート・アドバイザーズ株式会社が不動産関連資産の運用を受託する上場リートで、2003年12月に東京証券取引所に上場。2019年11月時点の資産規模は約6,400億円にまで拡大しています。

(*2) 丸紅の 100%子会社である丸紅アセットマネジメント株式会社が不動産関連資産の運用を受託する私募リートで、2014年10月に運用を開始。2019年11月時点の資産規模は約2,500億円にまで拡大しています。

<JIA 概要>

会社名 : ジャパン・インフラファンド・アドバイザーズ株式会社
所在地 : 東京都中央区日本橋茅場町二丁目 10 番 5 号
設立 : 2019 年 2 月
代表者 : 川上 宏
株主構成 : 丸紅 90%
 みずほ銀行 5%
 みずほ信託銀行 5%
事業内容 : 投資運用業
HP : <https://jia-jif.com/>

免責事項

上記は、ジャパン・インフラファンド・アドバイザーズ株式会社が資産運用の受託を予定しているジャパン・インフラファンド投資法人の資産運用に関する構想の一般的な説明のみを目的としたものであり、特定の有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘又は売買の推奨を目的としたものではありません。本日時点で本インフラファンドの運用は開始しておらず、また、本インフラファンドの投資証券についての取得の申込みの勧誘は行われておりません。

以 上